


ICT 学習支援教材コンテンツ活用実践事例

| | | 学校名 | 青森県立青森第二養護 | 学校 |
|-----------|---|---|---|---------|
| 授業について | 教科領域名 (✓又は■で 記入する。) | <input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習(探究)の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他() | | |
| | 単元(題材)名 | たべたのはいくつ? | | |
| | 単元(題材)の目標 | ・動物が食べた果物を見付け、数えることができる。 | | |
| 学習集団と実態 | 学部・学年・人数 | 小学 | 部 | 4 年 4 人 |
| | 本単元(題材)における学習集団の主な実態 | ※個別学習の場合は、個人の本単元(題材)における主な実態を端的に記入する。 対象の児童は普通学級に所属している。学級の児童の実態差が大きく、同じ学習内容は難しい場合が多い。視覚的な情報があると意欲的に取り組むことができる。論理的な思考活動を通して、動物が何をいくつ食べたのか求めることができる。 | | |
| ICT活用について | 使用した支援機器・教材の名称 | ※使用した ICT 機器(入出力支援装置等)名を記入する。 パソコン、プロジェクター | | |
| | 使用したアプリケーションの名称 | ※使用したアプリケーション名を記入する。 パワーポイント | アプリマーク  | |
| | 主な活用の用途 (✓又は■で 記入する。) | (複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 <input type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) | | |
| ICT活用のねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・論理的な思考(=文章、ことばでの表現)とそれが指す動きを対応して考えることができることが期待されるため。 ・投影型のプロジェクターを用いることで、投影されている画面の上にメモ書きや補助線等を書くことができ、従来のテレビ画面とホワイトボードを交互に見る複雑な視線の切り替えが必要にならず、同一画面で情報の伝達が可能となるため。 ・児童の注意が分散せず一つの方向から情報を受け取ることができ、児童の負担軽減につながることを期待されるため。 | | | |
| 活用の状況と支援 | ※ICT 活用場面と行った支援について記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・問題のイラストを表示し、キャラクターの動きをアニメーションで表したり、食べられた果物が数字に変換する動きを表したりした。ホワイトボード機能を利用し、矢印を引いたり、メモ書きをしたりした。 ・アニメーションを活用したことで、言葉の意味が視覚的に伝わり、やることが分かって学習に取り組むことができた。 ・プロジェクターのホワイトボード機能を活用したことで、1つの画面でメモ書きとプレゼンテーションソフトの併用が可能となり、結果的に児童の注意の焦点化が行われた。 | | | |